1B03 E781

レンジフード 取付説明書

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

⃠ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

分解・修理・改造禁止 ●修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

使用禁止 ●交流100V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります

埋込禁止 ●レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります

取付注意 ●排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

取付注意 ●配線工事は電気設備技術基準や内線規定に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

取付注意 ●メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

取付注意 ●レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

取付注意 ●電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

取付注意 ●レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります

アースを取り付ける ●アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

取付注意 ●自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

⚠注意

使用禁止 ●浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります

取付禁止 ●周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

接触禁止 ●運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

手袋をする ●取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

取付注意 ●レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

取付注意 ●部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

取扱注意 ●作業は2人以上でおこなうこと
レンジフードは36kgの重さがあります

取り付け上のお願い

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
  ・大工工事【設置のために下地工事等】　・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】
  ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
  流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建築工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
  ・ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m³/h時50Pa以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効率をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください。（目安：勾配1/100～1/50程度）。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。

- レンジフードは調理機器の真上に取り付けてください。なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。また、横方向50cm以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。
- 部屋の中央で調理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm²程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し、レンジフード内に結露水が流れる場合がありますので不燃処理された断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- 同時給排モデルのレンジフードをお使いの場合でも、レンジフードによる排気量と給気量が同じとは限らず、建物の機密性によっては給気が必要となる場合があります。給気量が不足すると、不完全燃焼、吸い込み不良、異音、扉の開閉に仕様が出るなどの不具合が発生する場合があります。その場合は別途空気取入口を設けてください。

取り付け前の調査と準備

⚠警告

分解・修理・改造禁止 ●修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

埋込禁止 ●レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります

取付注意 ●排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

取付注意 ●レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります　詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

取付注意 ●電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

取付注意 ●レンジフードは、薄板の金属（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります

⚠注意

取付禁止 ●周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

手袋をする ●取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

取付注意 ●レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

1 取付場所の強度確認
製品を支える強さが必要です。

製品質量	36kg

2 天井面への穴あけ（取付詳細図ー1）
1）天井面のレンジフードを取り付ける位置に間口525mm×奥行300mmの開口をあけてください。
2）開口部周辺を補強桟で補強してください。
※補強桟は、野縁・野縁受け等に固定してください。

3 吊りボルトの取り付け（取付詳細図ー2）
レンジフードの吊りボルト位置に合わせて、吊りボルトを垂らしてください。
※吊りボルトは、M10～12を用いてください
※吊りボルトは製品を支える十分な強さを確保してください。必要となる強度は、建物の条件、耐震クラスなどにより異なります。

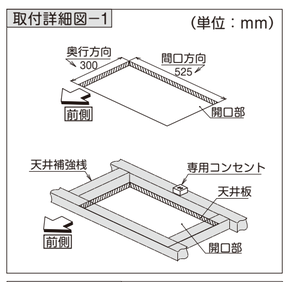
4 排気ダクトの取り出し（取付詳細図ー2）
φ150のスパイラルダクトを、取付詳細図ー2の位置に取り出してください。

5 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器上面からレンジフードの下端まで80cmです。
※火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となっています。

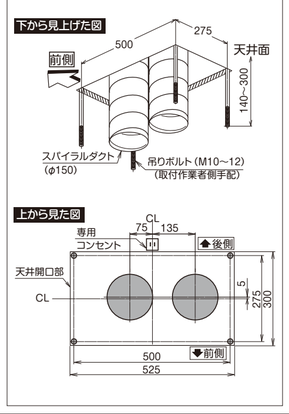
6 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは、専用のものを設置してください。（交流・単相100V）
コンセントは、JIS　C 8303 2極差込接続器 15A 125Vをご使用ください。

お願い
・必ずアース工事（D種接地工事）をしてください。レンジフードが誤作動することがあります。

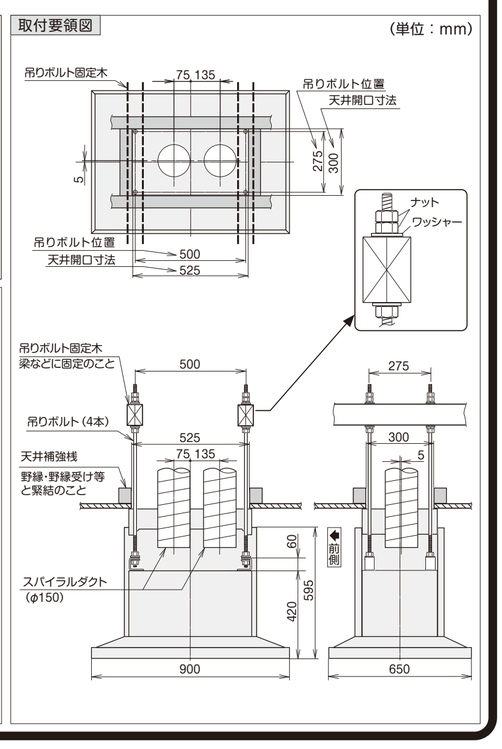
取付詳細図ー1 （単位：mm）



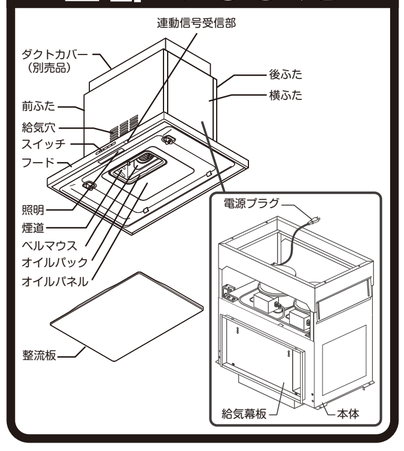
取付詳細図ー2 （単位：mm）



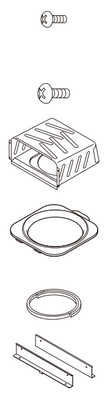
取付要領図 （単位：mm）



各部のなまえ



付属品



トラスねじ（M4×10）12本
ダクトカバーおよびフード固定金具の取り付けに使います。

トラスねじ（M5×12）4本
フードの取り付けに使います。

煙道　1個
本体内部に取り付けます。

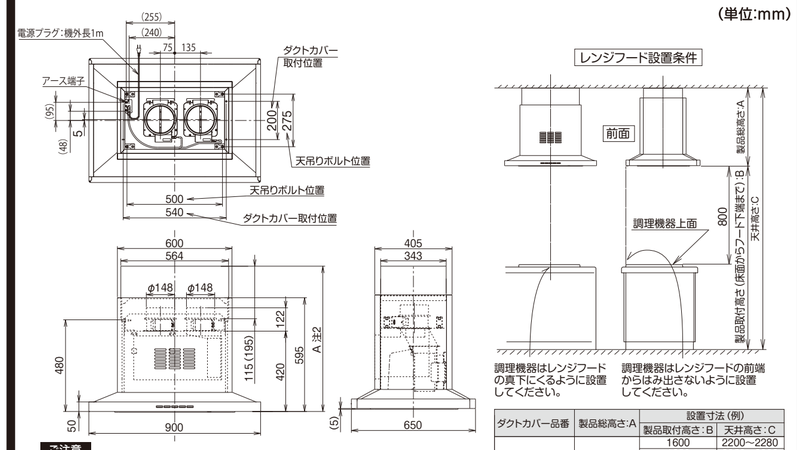
ベルマウス　1個
（煙道にテープで固定されています。）
本体内部に取り付けます。

ソフトテープ　2本
給気口・排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。

フード固定金具　2個
フードと本体の固定に使います。

製品寸法図

（単位:mm）



ご注意
調理機器設置高さと天井高さの関係により、このレンジフードが設置できない場合があります。右表の製品取付高さと天井高さから適切なダクトカバーを選択してください。
★注1 排気方向は上方のみ可能です
注2 ダクトカバーは型名によって寸法が異なります（右表参照）
※右表の設置寸法は一例です。記載以外の設置寸法の場合は、製品寸法図を参考にしてダクトカバーを選定・調整してください。
ダクトカバー型名の「＊」には色記号が入ります。

ダクトカバー品番	製品総高さ:A	設置寸法（例）	
		製品取付高さ:B	天井高さ:C
CDCJ-115*	600～680	1600	2200～2280
		1650	2250～2330
		1700	2300～2380
		1750	2350～2430
		1800	2400～2480
CDCJ-195*	680～760	1600	2280～2360
		1650	2330～2410
		1700	2380～2460
		1750	2430～2510
		1800	2480～2560

取り付けかた

1．付属品の確認

⚠注意

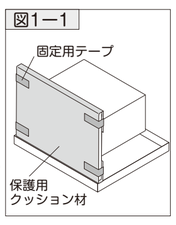
取扱注意 ●取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

取扱注意 ●作業は2人以上でおこなうこと
レンジフードは36Kgの重さがあります

付属品を確認します。
梱包箱から付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。

お願い
・保護用のクッション材と、固定用テープはキズ、破損防止のため、「3.フード・本体の準備」まではずさないでください。（図1ー1）
・床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
・取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

図1ー1



2．取付準備

⚠警告

取付注意 ●メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

取付注意 ●排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

取付注意 ●レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

⚠注意

使用禁止 ●浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります

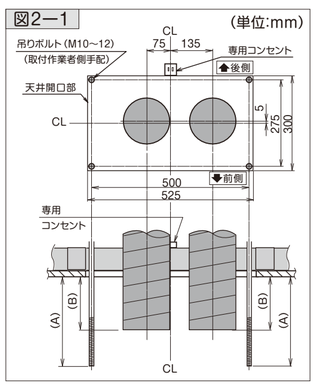
取付禁止 ●周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

1 事前に管工事業者（法的有資格者）へ天井面へのダクト穴の開口を依頼してください。
また、天井開口部近くの補強桟または野縁等に専用コンセントを設置します。

2 φ150のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。（図2ー1）

3 M10～12の吊りボルト（取付作業者側手配）を4本、天井内の梁などの頑健な部分に固定します。固定ピッチは前後275mm、左右500mmです。（図2ー1）

図2ー1 （単位:mm）



お願い
天井面からのダクトと吊りボルトの突き出し長さ（A）は、製品総高さ（範囲:600～760mm）により異なります。製品寸法図を参考にして、次式により算出してください。
吊りボルトの突き出し長さ（A）＝「製品総高さ」ー460
ダクトの突き出し長さ（B）＝「製品総高さ」ー520
例）

製品総高さ	吊りボルトの突き出し長さ（A）	ダクトの突き出し長さ（B）
600	140（+10）まで	80（+10）
680	220（+10）まで	160（+10）
760	300（+10）まで	240（+10）

※「製品総高さ」寸法は、「ダクトカバー（別売品）」、「製品取付高さ」および「天井高さ」によって異なります。

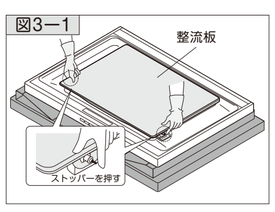
3．フード・本体の準備

お願い
・はずしたねじは取り付けの際に使用しますのでなくさないでください。
・はずした部品は変形させないよう、平らな場所に置いてください。
また、はずした部品で床などにキズをつけないようご注意ください。
・金具の変形防止のため、（図3ー1）のように必ず天パットの上に仕切パットを載せ、その上にフードを置いて作業してください。

■ フードの準備

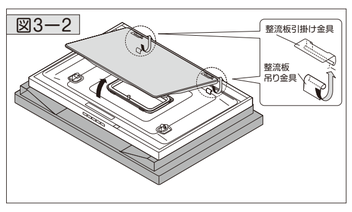
1 整流板をはずします。
1）保護用のクッション材をはずし、整流板の左右にあるストッパーを押してはずします。（図3ー1）

図3ー1



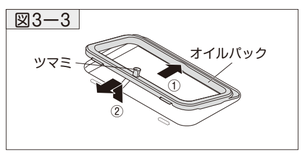
2）整流板を両手で支えながらゆっくりと開き、後ろを持ち上げて整流板吊り金具からはずします。（図3ー2）
※必ず左右同時にはずしてください。金具の変形の原因になります。

図3ー2



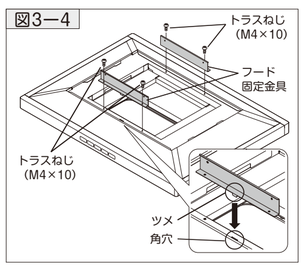
2 オイルパックをはずします。（図3ー3）
1）固定テープをはがします。
2）オイルパックのツマミを持ち、指で矢印①の方向に押し込んでから、②の方向に上げてはずします。

図3ー3



3 フード固定金具を取り付けます。（図3ー4）
フード固定金具のツメをフードの角穴にあわせ、向きに注意しながらフードにフード固定金具を付属品のトラスねじ（M4×10）各2本で固定します。

図3ー4



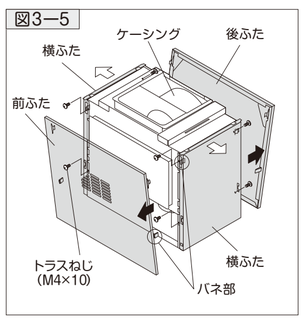
■ 本体の準備

お願い
本体が図3ー5の姿勢（ケーシングが上を向いている状態）で作業してください。上下逆の姿勢で置くと、床にキズを付けたりケーシングが変形するおそれがあります。

1 前ふた・後ふたをはずします。（図3ー5）
前ふた・後ふたを固定している固定テープをはがし前ふた・後ふたの上端を手前にひいてはずしてから、下端のバネを横ふたからはずします。

2 横ふたをはずします。（図3ー5）
※両側ともはずしかたは同じです。
横ふたを固定しているトラスねじ（M4×10）8本（片側4ケ所）をはずし、横ふたをはずします。
※取りはずしたねじは「7.横ふた・前ふた・後ふたの取り付け」にて再度使用しますので、なくさないでください。

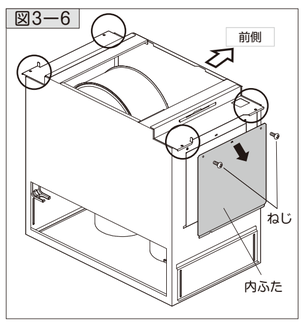
図3ー5



3 本体右側の内ふたをはずします。（図3ー6）
内ふたを固定しているねじ2本をはずし、内ふたを手でおさえながらはずします。
※取りはずしたねじは「4.本体の取り付け」にて再度利用します。

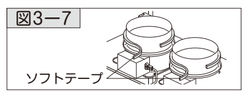
お願い
・内ふたのねじをはずすと、蓋が倒れることがあります。必ず手でおさえながらはずしてください。
・本体を持ちあげる際は、図3-6の丸印部4ヶ所を持たないでください。変形し、フードが正しく取り付けられなくなります。必ず強度のある安定した部位を持ってください。

図3ー6



4 ソフトテープを貼り付けます。（図3ー7）
給気口・排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。

図3ー7



4．本体の取り付け

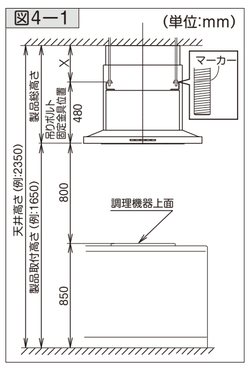
⚠注意

取付注意 ●レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

取付注意 ●部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

1 レンジフードの固定位置を決めます。（図4ー1）
1）右図を参照し、次式によりマーカー位置（X）の値を算出してください。
X=「天井高さ」ー（「床から調理機器上面までの高さ」＋800＋480）
例：天井高さが2350mm、床から調理機器上面までの高さが850mmの場合
X=2350ー（850+800+480）
天井からのマーカー位置（X）は220mmとなります。
2）吊りボルトにマジックペンなどで、天井からXの値の位置にマーカーをつけます。

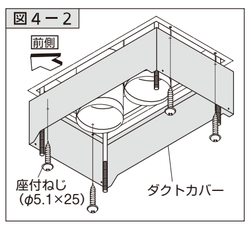
図4ー1 （単位:mm）



2 ダクトカバー（別売部品）を取り付けます。（図4ー2）
ダクトカバーに付属の座付ねじ（φ5.1×25）4本でダクトカバーを天井面に固定します。

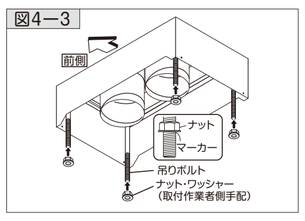
お願い
切り欠きのある面をレンジフードの前後方向にしてください。向きを間違えると本体との固定ができなくなります。

図4ー2



3 吊りボルトにナットを取り付けます。（図4ー3）
M10～12のナットおよびワッシャー（取付作業者側手配）を吊りボルトのマーカー位置まで差し込みます。

図4ー3

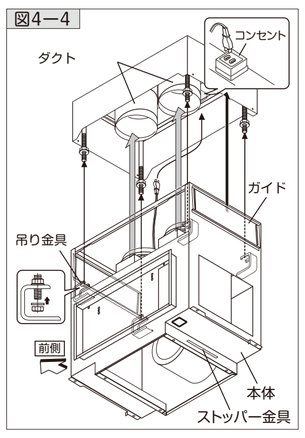


4 本体を吊りボルトに固定します。（図4ー4）
1）取り付けたダクトカバーに本体両脇のガイドを差し込みながら本体を持ち上げ、4ヶ所の吊り金具に吊りボルトを差し込み、吊り金具を挟み込むように吊りボルト下側からM10～12のナットおよびワッシャー（取付作業者側手配）でしっかりと締め付けます。

お願い
・給気用ダクトに給気口を、排気用ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。
・本体両側にあるストッパー金具を持って持ち上げたりしないでください。ストッパー金具が変形してフードが正しく取り付けられなくなります。

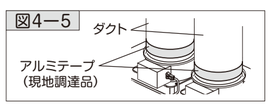
2）「5.電気配線」を一読してから、電源プラグを天井裏などのコンセントに差し込みます。
※必ず分電盤のブレーカーを「切」にしてからおこなってください。
※アース（D種接地工事）を取り付けてます。

図4ー4



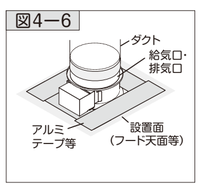
5 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図4ー5）

図4ー5



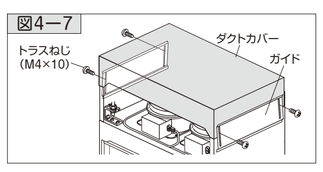
■ 給気口・排気口設置面の漏風確認のお願い（図4ー6）
給気口・排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトに接続しようとすると、設置面（製品天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。漏風する場合は、給気口・排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

図4ー6



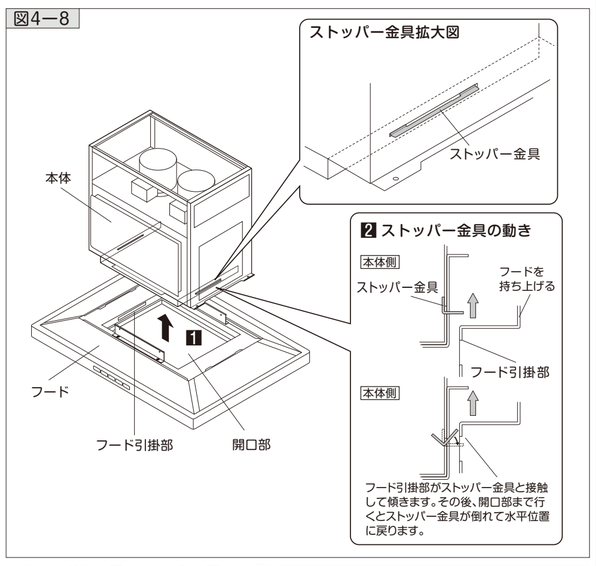
6 ダクトカバーと本体を固定します。（図4ー7）
付属品のトラスねじ（M4×10）4本で左右各2ヶ所をガイドの長穴に固定します。

図4ー7



7 フードを取り付けます。
1）フードを2人で持ち上げ、フード中央の開口部に本体を差し込みます。（図4ー8❶）

図4ー8



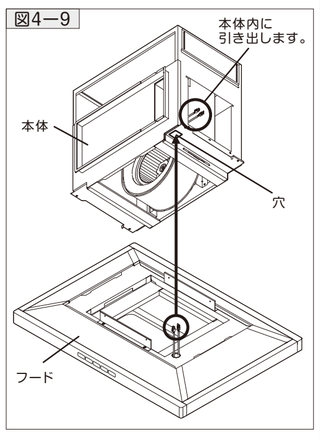
2）その際、フードから出ている配線を本体下部の穴から通して本体内に引き出します。（図4ー9）

お願い
配線を挟まないようにご注意ください。

3）フードが本体に突き当たるまで持ち上げ、フードを持ったまま少し下げストッパー金具の上にフード引掛部を乗せます。（図4ー8❷）

お願い
フードをしっかり持ったまま上下に少し動かしてはずれないことを確認してください。
ストッパー金具の戻りが不完全な状態で手を離すと落下するおそれがあります。

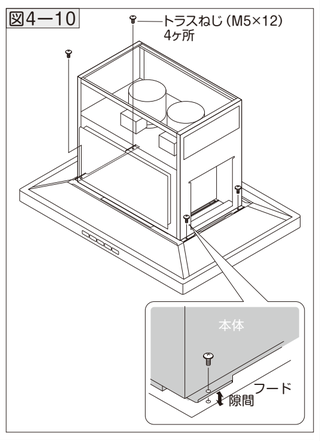
図4ー9



4）付属品のトラスねじ（M5×12）4本で本体上側から右図の各位置を固定します。（図4ー10）

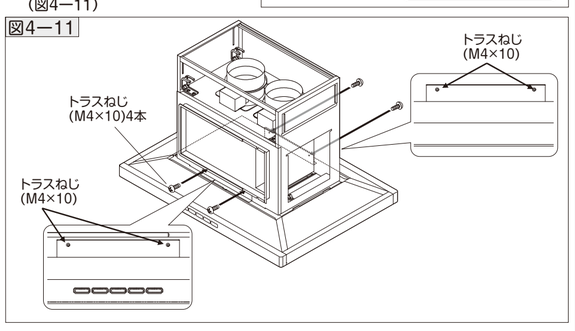
お願い
トラスねじ（M5×12）を締め込む前は、本体とフードの間に隙間があります。ねじを締め付けるときは、4ヶ所の隙間が半分くらいになるまで締め付けてから完全固定してください。

図4ー10



5）付属品のトラスねじ（M4×10）4本で本体とフードを固定します。（図4ー11）

図4ー11



取り付けかたは裏面に続きます。

1B03 E781

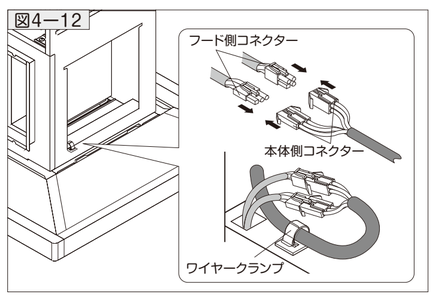
こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

取り付けかた（つづき）

8 コネクターを接続します。（図4ー12）
本体側のコネクターをフード側のコネクターにそれぞれ接続します。接続したコネクターの配線をワイヤークランプに引っ掛けて、ワイヤークランプをロックします。（図4-12）

お願い
コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。

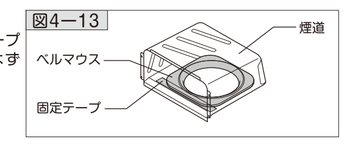
図4ー12



9 本体横の内ふたを取り付けます。
「3.フード・本体の準備」■本体の準備、手順3で取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

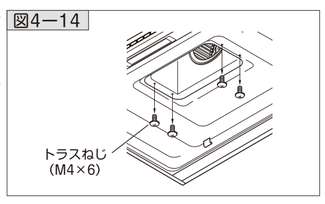
10 煙道を取り付けます。
1）付属品の煙道内の固定テープをはがし、ベルマウスをはずします。（図4ー13）

図4ー13



2）トラスねじ（M4×6）4本をフードからはずします。
※取りはずしたねじは再度使用しますので、なくさないでください。（図4ー14）

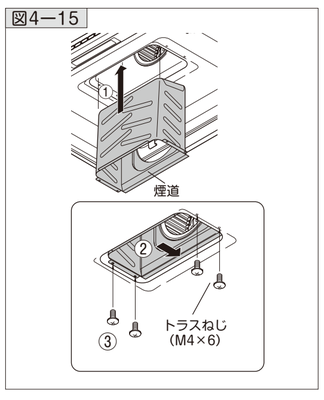
図4ー14



3）①煙道をフード開口部の前側（スイッチ側）に沿わせるように挿入したあと、②ファン側に押し込みます。（図4ー15）
※煙道はキズをつけないよう、ゆっくりと差し入れてください。

4）③2）ではずしたトラスねじ（M4×6）4本でフードに固定します。（図4ー15）
※煙道を確実にファン側へ押し込んでいないとねじ穴が合わず、トラスねじを締め付けられません。

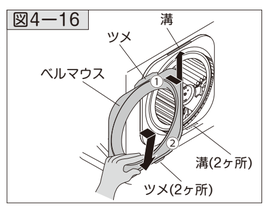
図4ー15



11 ベルマウスを取り付けます。（図4ー16）
ベルマウスを上側の溝へ押し入れ（①）、ベルマウス下側を溝に入れます（②）。

12 オイルパック、整流板を取り付けます。
「3.フード・本体の準備」で取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

図4ー16



5．電気配線

⚠ 警 告

分解・修理・改造禁止

●修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

使用禁止

●交流100V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります

取付注意

●配線工事は電気設備技術基準や内線規定に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

アースを取り付ける

●アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

■「4.本体の取り付け」手順4の 2）で以下の作業をおこないます。
1）アース（D種接地工事）を取ります。
2）分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い
・電源は専用のコンセント（2 極差込接続器 15A 125V）およびブレーカーを設けてください。
・「6.試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
・必ずアース工事（D種接地工事）をしてください。

6．試運転

⚠ 注 意

接触禁止

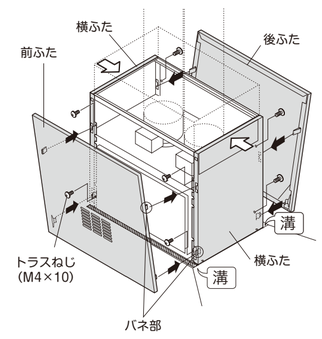
●運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
■ 前ふた・後ふた・横ふたは取り付けていない状態で試運転してください。
■ 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
■ 異音や振動がないことを確認してください。
■ 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

7．横ふた・前ふた・後ふたの取り付け

■ 横ふたは左右同一品です。前ふた・後ふたは異なりますので取り付けの際は注意してください。
■ 横ふたを先に取り付けてください。
■ 取り付けかたは「3.フード・本体の準備」の取りはずしかたを参考にしてください。

お願い
・取り付ける際は、フード天板面にキズをつけないように注意して取り付けください。
・前ふた、後ふたの取り付けは、下端(フードに近い側)を先にフードの溝に差し込みながら取り付けたあと、上端を押し込むようにして取り付けてください。



※取付作業完了後は製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープはもとの状態に取り付けてください。

8．お客様への説明

■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

〔製造元〕 富士工業株式会社
本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1番9号
TEL 042（768）3754（営業部）